

令和2年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 内藤 みゆき）

学校の教育目標

- ㊦ 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）
- ㊧ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）
- ㊨ 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）

目指す学校像(ビジョン)

言葉と学びを大切にし、自ら伸びる力・協働する力を育成する学校

ビジョンの 設定理由 (本校の現状 と課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく素直な児童が多く、学習や行事に前向きに取り組んでいる。しかし、学力・体力ともに二極化傾向があり、授業の工夫・充実、個に応じた指導・支援が必要である。</li> <li>・学習・生活規律や基本的な生活習慣の一層の定着を図るとともに、個別に支援を要する児童については全体で見守り、関係諸機関と連携を図りながら、特性に応じた支援・指導を行っていく必要がある。</li> <li>・学力向上や生活指導の充実のために、教員の指導力向上・資質向上を組織的に図っていく必要がある。</li> </ul>
---------------------------------	---

中期的な経営目標

- 自己指導能力を高め、自他を愛し、自律した行動ができる児童を育成する。
- 基礎基本を定着させ、すすんで考え、表現し、対話的な学びを通して考えを深めていく児童を育成する。
- 健康保持・体力増進のために自ら考え、判断し、粘り強く実践する児童を育成する。
- 保護者・地域との連携及び協力を推進し、教育活動の充実と安全確保を図る。
- 特別支援教育の推進を図っていくとともに、通常学級・特別支援学級・特別支援教室の組織的連携を図る。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 月1回の校内委員会や週1回の生活指導夕会での情報共有を、児童への組織的な対応につなげる。また、年3回のアンケートを中心に、児童の困り感等を汲み取り、適切な支援につなげ、自己肯定感を向上させる。	① 全教室統一の掲示「声の大きさ」「ハンドサイン(納得・同じ・別の意見など)」を活用して指導することで、意見交流の基礎指導を校内共通で行う。また、「学習&生活のルール」を全校で共有し、規律の定着を図る。	① 年3回の食物アレルギー研修及び対応訓練の実施を通して、対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行い、正しい知識を児童に身に付けさせるとともに、教職員の危機管理意識を高度に保つ。
② 年3回の構成的グループエンカウンター等のOJT研修やいじめに関する授業の実施を通して、教員の指導力向上を図りつつ、児童の自己理解・他者理解を深めていく。	② 新型コロナ対応の休校で変更した指導計画及び授業時数の進捗状況を毎月確認し、指導内容の確実な履修を図る。また講師を招聘した校内研究を年間3回実施し、授業づくり等について研修を深め、授業改善に取り組む。	② 校内共通の「あい て ます か」(間を開ける・手を洗う・マスクを着用する・換気をする)のポスター掲示を通して、新型コロナ感染防止対策の定着を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校関係者評価アンケートにおいて、自他の良さを認める教育に対する対応に関する肯定的な回答85%以上を目指す。	① 学校関係者評価アンケートにおいて、言葉による表現活動への肯定的な回答80%以上を目指す。	① 食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。
② 学校関係者評価アンケートにおいて、いじめや不登校に対する対応に関する肯定的な回答85%以上を目指す。	② 学校関係者評価アンケートにおいて、学習内容の理解や授業の工夫に関する肯定的な回答90%以上を目指す。	② 学校関係者評価アンケートにおいて、安全指導や校内安全に関する肯定的な回答90%以上を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 地域との連携	5 特別支援教育
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 今年度発足の「地域学校協働本部」を円滑に始動させ、地域人材の掘り起こしと活用を図る。また、基礎学力の保障のための放課後学習支援教室の実施に取り組む。	① 新型コロナ感染の状況を鑑みつつ、例年実施している毎週火曜日の交流給食(特別支援学級児童と通常の学級児童との日常的な交流)を開始し、多様性尊重への理解促進を図る。
② ゲストティーチャー等、外部人材の活用による体験的な学習の充実を図るため、「地域学校協働本部」のコーディネート力を生かしていく。	② にじいろ教室(特別支援教室)での指導が、在籍学級での指導・支援に活かされるように、専門員やコーディネーターを窓口として、円滑な連携が図られるようにする。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校関係者評価アンケートにおいて、学校と地域の方々との連携に関する肯定的な回答90%以上を目指す。	① 学校関係者評価アンケートにおいて、交流学習や自他を認め合う教育の充実に関する肯定的な回答85%以上を目指す。
② 学校関係者評価アンケートにおいて、体験的学習等の充実に関する肯定的な回答80%以上を目指す	② 校内学校評価アンケートにおいて、特別支援教育の充実や巡回指導教員との連携に関する肯定的な回答85%以上を目指す。

人材育成・組織運営

- ・主幹教諭をリーダーとする校内組織を活かしたOJTの充実を図る。(若手教員の育成・主任教諭の活用)
- ・職層に応じた職責の自覚を促し、校務改善及び授業力の向上を推進していく。